

## 2018年度 大学コンソーシアム京都SDゼミナール募集要項

2018年3月  
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

### 1. はじめに

大学コンソーシアム京都では、2015年度から、加盟校を中心とする各大学・短期大学における次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的として、SDゼミナールを開催しています。

「知識基盤社会」の本格的な到来が指摘される今日、少子高齢化やグローバル化の進展など高等教育を取り巻く環境は劇的に変化し、より一層不透明さを増しています。中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」（2012年）では、予測困難な次代を切り拓く人材や学術研究への期待を掲げるなど、大学に対する社会からの期待はますます大きくなっています。また、中央教育審議会の大学分科会組織運営部会「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」（2014年）では、学長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の構築が不可欠であるとし、学長がリーダーシップを発揮していくための補佐体制強化の観点から、IRや入学者選抜、教務、学生支援、人事や財務、広報等各分野に精通した「高度専門職」の設置や、恒常的な大学職員のスキル向上のため、2017年4月1日の大学設置基準の改正により、SDが義務化されました。

このような状況を踏まえ、大学職員には大学運営に携わるプロフェッショナルとして、次代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを組織における意思決定や社会的使命である教育・研究・社会貢献に反映させる能力が求められています。

### 2. 研修の目的

- ① 大学職員として必要な知識を体系的に習得できるカリキュラムを提供し、今後の大学運営を担ういわゆる「プロフェッショナル」職員の育成を目指す。
- ② 5年以上の職務経験を積んだ職員を対象とし、ステップアップをめざしている職員の導入的な研修プログラムとする。
- ③ 受講生が大学の枠を越えた人的ネットワークを形成し、所属大学において、今後の大学間連携や交流のキーパーソンとなるような機会を提供する。

### 3. 研修の到達目標

- ① 大学職員として必要な基礎知識（高等教育制度、学生実態の把握、大学と社会との関連等）を得る。
- ② 他大学の職員と共に学び、情報交換することを通じて、自大学と異なる事例や取り組みに関する見識を深める。
- ③ 受講生間で親交を深め、大学の枠を越えた人的ネットワークを形成する。
- ④ 相互に切磋琢磨する環境の中で、職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。

### 【プロフェッショナル人材になるために必要なこと】

- ・技術的側面（専門性など）での成長
- ・管理的側面（自主性、同業者への準拠など）での成長
- ・精神的側面（貢献など）での成長

※『経験からの学習』（松尾睦、同文館出版）より

## 4. 実施概要

開催日時：2018年6月2日（土）～7月21日（土）13：45～16：55（90分×2コマ）※1

最終報告会（受講生公開プレゼンテーション）：9月8日（土）10：00～17：00 ※2

会場：キャンパスプラザ京都

※1：一部の講義については、実施時刻が変則的になる可能性があります。

各講義終了後（7月7日除く）、30分間の受講生によるリフレクション会を行います（参加は任意）。

※2：受講生公開プレゼンテーションの時間帯については、受講生数により変更となる可能性があります。

## 5. 募集人数

20名（当財団のSD研修委員会による書類選考を行います）

## 6. 参加条件

SDゼミナール開始の時点で、職務経験5年以上の者（その内、大学職員（※）としての職務経験が3年以上。職位問わず）

※京都府、京都市、大学コンソーシアム京都の職員も参加対象とする。

## 7. 研修内容

※所属・役職は2018年3月現在

講義概要	
第1回	6月2日（土）オリエンテーション及び講義
<b>オリエンテーション</b> 第一部：SDゼミナールを受講する心構えー期待される大学職員を目指してー 担当者：渡邊 億徳 氏（SD研修委員/同志社大学 総務部人事企画課 人事企画係長） <講義の目的> SDゼミナールでは、課題に対して「自分がどのように考え、実践するのか」を常に意識して、取り組むことが求められます。研修開始にあたり、受講者の発表や対話も交えながら、受講者の主体性を喚起することを目指します。 <獲得目標> ・自らの課題認識ができる。 ・SDゼミナールを通じて成長する姿を描ける。  第二部：修了生から受講生へー修了生からのメッセージー 担当者：井上 友裕 氏（京都産業大学 教学センター理学部事務室 主査） 白藤 康成 氏（大阪人間科学大学 学生課/大学改革推進室 書記） <講義の目的> ・修了生がSDゼミナールで得たもの、学んだことを受講生に話すことで、SDゼミナールに対する意識を高めてもらう。 ・SDゼミナールの流れを掴んでもらい、今後の受講に対するイメージを持ってもらう。 <獲得目標> ・今後、SDゼミナールをどのように受講・活用するのかを説明できるようになる。	

**第2回 6月9日(土)**

**大学の歴史と制度－大学の歴史的展開と大学改革の動向－**

担当者：江原 武一 氏（京都大学 名誉教授）

<講義の目的・獲得目標>

講義の目的は、大学の歴史的な歩みと制度的な特徴をふまえて、日本の第二次世界大戦後の大学政策や大学改革の動向と課題を理解し、所属大学の改革の取組や成果、課題を考察する手がかりを得ることです。具体的な獲得目標は次のとおりです。

①大学の歴史的展開や日本の大学改革の動向と課題を考えるための基本的な見方や用語を理解し、活用することができる（知識）。

②所属大学における大学改革の課題や方策を、自らの経験や知見をふまえて系統的に理解し、主体的に議論することができる（価値観・態度）。

**第3回－1 6月16日(土)**

**大学と高等教育政策－高等教育政策の側から大学を見ると－**

担当者：松坂 浩史 氏（文化庁 地域文化創生本部 事務局長）

<講義の目的・獲得目標>

大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、様々な大学改革を進めるための高等教育政策が推進されている。大学側からは、「改革疲れ」ということも言われる中で、なぜこれらの高等教育政策が打ち出されているのか、その背景について考えてみる。

今後、大学職員として働く中で、高等教育政策の基礎知識を知るとともに、政策を「見る目」を養うことを目的とする。

**第3回－2 6月16日(土)**

**アカデミック・ライティングの基礎－「問題意識」を具体的な「問い」に変換する方法とは？－**

担当者：坂本 尚志 氏（京都薬科大学 一般教育分野 准教授）

<講義の目的・獲得目標>

この講義では、レポートに代表されるアカデミックな文章の書き方の基礎を、「問い」の立て方、扱い方に焦点を当てて学びます。

講義やグループワークによって、「問い」に基づいた一貫した議論の流れを作れるようになること、そして、業務の中でのこうした方法の応用可能性を、討論を通じて発見することを目的とします。

**第4回 6月23日(土)**

**大学の戦略とリーダーシップ－戦略を創出する組織づくり－**

担当者：吉武 博通 氏（公立大学法人首都大学東京 理事）

<講義の目的・獲得目標>

大学改革を教育研究の高度化や経営基盤の強化を通じて、個々の大学の社会的存在価値の向上に繋げるためには、「戦略」、それを遂行する「組織」、それを担う「人材」の3つの要素が必要である。この前提にたつて、大学における戦略の意味を問い直すとともに、戦略を遂行し、新たな戦略を創出する組織のあり方、その担い手である大学スタッフに期待される役割と育成について、多面的な視点から共に考える機会を提供する。

**第5回 6月30日(土)**

**大学と高大連携・高大接続－キャリア教育の視点から、教育改革について考える－**

担当者：荒瀬 克己 氏（大谷大学 文学部 教授）

<講義の目的・獲得目標>

- ・高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的な改革の趣旨について理解を深める。
- ・他者と関わりながら主体的に生きていく若者を育てるために、どのような取り組みが求められるのかについて考察する。
- ・上記を踏まえ、高大連携・接続にどう取り組めばよいか模索する。

**第6回 7月7日(土)****大学職員と発想カープレイフル・マインドセットが働き方を変える！ー**

担当者：上田 信行 氏（同志社女子大学 現代社会学部現代こども学科 特別任用教授）

＜講義の目的・獲得目標＞

チャレンジしたいと思う気持ちは、ものごとに対して「Can I do it?」と考えるのではなく、「How can I do it?」と考えるプレイフル・マインドセットから生まれてきます。出来るかどうかを不安に思うかわりに、どうすれば課題に向きあえるかを考えると、全ての行動が楽しく、ポジティブで挑戦的になってきます。研修では、みなさまの知的好奇心を ROCK するプレイフルなワークショップを体験していただき、困難な課題に向かって一歩踏み出そうとする自信と勇気を獲得していただきます。

**第7回 7月14日(土)****大学教育の質保証に向けた教学マネジメントー問いとエビデンスに基づくアプローチー**

担当者：鳥居 朋子 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授/大学評価室副室長）

＜講義の目的＞

高等教育機関としての大学における教育の質保証にかかわり、特に学生の学びや成長発達を促進し得るマネジメントのあり方を検討することを目的とします。なおかつ、ミニ・ワークショップを通じて、質保証の実現に向けた問いとエビデンスに基づくアプローチを探究します。

＜到達目標＞

・質保証を支える教学マネジメントの意義および特質を説明することができる。

・改善への意思決定に繋がる問いやエビデンスを特定することができる。

**第8回 7月21日(土)****大学と社会ー地域連携の意味と大学の役割ー**

担当者：深尾 昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 准教授）

＜講義の目的・獲得目標＞

人口減少時代、超高齢化社会を迎える中で、社会が求める大学の役割、地域社会に根ざす大学のあり方が問われている。これまでの大学連携や地域連携の事例をもとに、これからの大学の役割を考え、スタッフ部門の役割と求められる能力について考える。

**受講生公開プレゼンテーション 9月8日(土)****8. フォローアップ研修について**

SD ゼミナールでは、修了後も大学運営を担う職員になるべく、フォローアップの機会（例：SD ゼミナールやワークショップ形式の講師、ポスターセッション発表など）を設けていますので、積極的に活用してください。随時お知らせいたします。

なお、SD ゼミナール修了後の翌年、次年度の SD ゼミナール第1回講義と同じ日程で修了生全員を対象としたフォローアップ研修を実施する予定ですので、原則、参加してください。

**9. 研修の運営方法**

- 各回のシラバスに沿った研修運営を行います。また、講師はファシリテータの役割も果たし、受講生の積極的な議論も取り入れていきます。
- 修了レポート（後述）の執筆を念頭に、早期の段階で「アカデミック・ライティングの基礎」の講義（第3回）を行います。
- SD ゼミナール受講中に、修了レポートの構想を2回程度提出していただきます。なお、希望者は、SD 研修委員等から修了レポートのアドバイスを受けることができます。
- 受講生には、毎回受講後に「講義アンケート」にお答えいただきます。
- 毎回の授業をビデオ撮影し、講義を欠席した受講生には後日提供いたします。
- 公開プレゼンテーションは修了レポートのテーマに基づいて、中間報告の位置づけで行っていただきます。このため、開講当初より、具体的な個人の研修テーマ（例：大学経営人

材育成論、大学組織論、大学改革論など)を持って、講義や演習に臨んでください。

## 10. 修了要件

原則として、下記の全ての条件を満たした受講生に「修了証」を授与します。

<修了要件>

- ・公開プレゼンテーションを含む講義9回のうち、7回以上の出席
- ・修了レポートの提出

※公開プレゼンテーションには極力参加すること

<修了レポート執筆要領>

文字：10.5ポイント、MS明朝

形式：「Microsoft Word」にてA4、横書き、余白（上35mm、下30mm、左右30mm）、40字×30行で設定。

分量：6ページ以上10ページ以内（図表・参考文献等を含む）

締切：2018年10月末

※執筆要領の詳細については、SDゼミナールの受講期間中にお伝えします。

## 11. シラバスおよび教材について

受講生には、受講決定通知と同時に、シラバス（教材・参考文献リストを含む）を配布します。また、初回講義時のオリエンテーションにおいて、具体的な研修プログラムの運営方法について説明いたします。

## 12. 受講申込み方法等

受講申込み方法は、【A】所属の大学・短期大学（以下「大学等」）を通じてお申し込みいただく方法（以下、機関申込）、と【B】個人でお申し込みいただく方法（以下、個人申込）、の2種類があります。申し込みに先立って、大学等の人事・研修担当部課において、どちらか一方の申込み方法をお選びください。（1 大学等で、【A】【B】2つの方法を併用することはできません）。

	【A】機関申込	【B】個人申込
【STEP1】 お申込み	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、<u>所属の大学等を通じてメール添付にてお申し込みください。</u></p> <p>注：各大学での取りまとめにあたっては、後述の締切までに集約が完了できるよう、学内集約期日の設定をお願いいたします。</p>	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、メール添付にてお申し込みください。</p> <p>注：申込に際しては、所属大学が『【A】機関申込』を採用していないか、事前に人事・研修担当部課宛てに確認をお願いします。</p>
	申込先： <a href="mailto:sd@consortium.or.jp">sd@consortium.or.jp</a> 締 切：4月30日（月）（必着）	
【STEP2】 選考	受講申込書に基づき、書類選考を行います。	
【STEP3】 受講可否のお知らせ	<p>5月中旬以降に、<u>所属大学等を通じて本人宛てに通知します。</u></p> <p>その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>	<p>5月中旬以降に、本人宛てに通知します。</p> <p>その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>
【STEP4】 受講料のお支払い	所定の期日までに、当財団の指定口座にお振り込みいただきます。	
【STEP5】 受講	受講開始（6月2日）	

※1 別添資料あるいは財団ホームページよりダウンロード（Word形式）することが可能です。

用紙は【機関申込】と【個人申込】に分かれています。

URL：<http://www.consortium.or.jp/> [トップページ→高等教育関係の方→SDゼミナール]

機関申込にあつては、受講申込書とともに、所定用紙による名簿をご提出いただきます。

その際、同一大学より複数名の応募がある場合は、名簿の該当欄に必ず優先順位をつけてお申し込みください。また、いずれの申込方法の場合も、メール送付時には、件名に「【SDゼミナール申込】（所属・氏名等）」と記載してください。折り返し、申込み受領の返信メールをお送りします。

### 1 3. 参加費および納入方法

加盟校職員：30,000円、非加盟校職員 60,000円

受講許可後、所定の期日までに当財団の指定口座にお振り込みいただきます。

※ 一度納入された受講料は、研修開始後受講を辞退されても返金はいたしかねます。

### 1 4. 受講申込書送付および問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育開発事業部（SD事業担当）

所在地：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：075（353）9163 FAX：075（353）9101

e-mail：[sd@consortium.or.jp](mailto:sd@consortium.or.jp)

以上